



# 清澄庭園 (きよすみていえん)

～岩崎家三代が築いた名石の庭～

**大泉水**  
三つの中島を配した広い池。水面に島や数寄屋造りの建物、樹々の影を映し出すこの池は、庭園の要です。現在は雨水で賄っています。

清澄庭園は、広大な敷地に全国から集められた巨岩、巨木、庭木が配された、明治を代表する回遊式林泉庭園です。名石を配した池を巡ると、四季折々の表情が楽しめます。11月中旬～12月上旬が紅葉の見頃であり、ぜひ足をお運びください。



東京都江東区清澄2-3丁目  
開園時間 / 9:00～17:00 (入園は16:30まで)  
入園料 / 一般150円、65歳以上70円、小学生以下および都内在住・在学の中学生は無料  
休園日 / 12月29日～1月1日  
アクセス / 都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線  
清澄白河駅より徒歩3分



## 清澄庭園の歴史と見どころ

### 彌太郎の時代



**名石**  
岩崎家が自社の汽船を用いて全国の産地から集めた石が園内に無数に配置され、さながら「石庭」の観を呈しています。

三菱の創業者・岩崎彌太郎には、庭園造りの趣味がありました。「心配事や悩みがあれば、庭園を見に行く。そうすれば、心持ちは爽快になり、暗い気持ちは晴れる。他に特別な趣味もないが、これが唯一の趣味だ」。1878年、彌太郎は深川にあった大名屋敷跡を買い入れ、修復を始めます。隅田川から水を引

き、三菱の船で取り寄せた石を使って海浜の景色を作った回遊式林泉庭園。これが今の清澄庭園です。当時は料亭での接待が一般的でしたが、彌太郎は欧米の社交習慣に倣い、賓客を接待する場として庭園を利用しました。

### 彌之助・久彌の時代

彌太郎の遺志を継いだ三菱二代社長彌之助、三代社長久彌によって造園工事はさらに進められ、1909年には、英国陸軍元帥の来日を歓迎するために小亭を建てます。もてなしを受けた元帥は、日本式庭園に感動してやまなかったといひます。

1923年の関東大震災では、近隣住民の避難場所としての役割を果たし、多くの人命を救助。その後、庭園の防災機能を重視した久彌は、庭園を当時の東京市に寄付しました。現在は、東京都の名勝に指定され、多くの来園者の目を楽しませています。



**涼亭**  
国賓として来日した英国元帥をもてなすために作られた小亭。池に突き出るようにして建てられた数寄屋造りの建物で、庭園を日本情緒豊かなものにしていきます。

涼亭で過ごす、優雅なひとときはいかがでしょうか？

涼亭は、集会場としての貸し切り利用やお食事の注文が可能です。予約方法などの詳細は、HPをご確認ください。

涼亭

検索

写真は清澄御膳

